

James Burgh の *Political disquisitions* (1775)

Political disquisitions by James Burgh (1775)

元跡見学園女子大学教授
Formerly professor of the Atomi University

高 野 彰
TAKANO, Akira

Abstract

Nagoya University Library has 3 sets of *Political disquisitions* (3vols) by James Burgh(1775). But they are not the same contents because last gathering (Kk) of volume three consists of two kinds of leaves, that is, 3 leaves and 4 leaves. The former belongs to Mizuta||0269 and Hobbes||E58, and the latter Mizuta||0272. Order and number of leaves and their contents are as follows,

Table 1: 3 leaves: Kk1: Index, Kk2: Index, Kk3: New BOOKS

Table 2: 4 leaves: Kk1: Index, Kk2: New BOOKS, Kk3: cancelland to K2, Kk4: Index.

After page 132 being printed and proof-readed, some sentences were changed. It is necessary to print K2 leaf(including 132 page)once more. Publisher decided to print it in Kk gathering. But at first as Kk gathering consists of 2 leaves for index, he changed number of leaves from 2 (folio) to 4 (quarto) and printed and folded them, but he did not move a cancelland to K2, and a leaf of New BOOKS to the last in the Kk gathering. So this is the same number and order of leaves as table 2

If two leaves (a cancelland and 'New BOOKS') are moved to the proper places, number and order of leaves of Kk gathering is the same as table 1.

Mizuta||0272 indicates how it was made. If there is not Mizuta||0272, it is difficult to explain precisely how Kk gathering of Mizuta||0269 or Hobbes||E58 was made.

Keywords

Political disquisitions, James Burgh, Bibliography (西洋書誌学),
Collation (校合式), Cancelland (差し替え紙葉), Cancellandum (削除紙葉)

名古屋大学附属図書館は1775年に出版されたJames Burghの*Political disquisitions*（全3巻）を3セット所蔵している。それらとはMizuta||0272本、Mizuta||0269本そしてHobbes||E58本であるが、内容は同一ではない。第3巻（図1）の最後の折丁Kkは紙葉数が異なり、3紙葉と4紙葉の2種類があるからである。前者がMizuta||0269本とHobbes||E58本であり、Kk折丁の内訳は表1に示した。そして後者がMizuta||0272本であり、内訳は表2に示した。

両表の紙葉の順番については後述する。この点を除くと、両表の違いは「131」、「132」ページさらには折記号「*K2」と表示された1枚の紙葉の有無にある。表1にこの紙葉はないが、Mizuta||0269本やHobbes||E58本で「131」ページを見ると、下部の欄外に「*K2」という折記号が見つかる（図2）。この折記号は、その前後の紙葉の折記号（KやK3）とは別体系である。表1の折丁は3紙葉であるが、表1も、表2と同様に4紙葉で印刷されたと推定できる。

「*K2」とはどんな意味であろうか。「K2」とはK折丁の2枚目の紙葉を表わす折記号である。そしてこの紙葉の内容を修正、印刷すると、K2とは別の内容の紙葉ができる。そこで、K2にアスタリスクを付け、K2とは別の紙葉であることを示すと共に、挿入場所（K2）をも示している折記号なのである。

K2の紙葉に何が起こったのであろうか。きっかけはMizuta||0272の第3巻の印刷に始まる。この本の132ページが印刷、校正されると、変更が起こった。変更予定の部分（K2^v）（図3）と、変更し終わった部分（Kk3^v）（図4）はマスでくっつけて示した。これらの変更は行数の増減だけでなく、文章も変更されるので、活字を組み直さなければならない。そして印刷後は既に印刷した紙葉（K2）と入れ替える必要があるので、新たに印刷用紙が1枚必要になる。

追加の1紙葉はどのようにして用意したのであろうか。Mizuta||0272本の第3巻のKk折丁の3枚目は図5の右ページ（Kk3^f）に示した。見開きの図を見ると、左側のページにはページ表示がなく、右側のページには巻末であるにもかかわらず、131という若いページ数が刷り込まれ、最下部には「*K2」という折記号も印刷されている。3枚

表1：Mizuta||0269本とHobbes||E58本のKk折丁

紙葉数	表示内容
Kk[1]	Index（見出しWの途中まで）
[Kk2]	Index（見出しWの途中から）
[Kk3]	New BOOKS

表2：Mizuta||0272本のKk折丁

紙葉数	表示内容
Kk[1]	Index（見出しWの途中まで）
[Kk2]	New BOOKS
[Kk3]	Vol.III、131、132頁と「*K2」の表示
[Kk4]	Index（見出しWの途中から）

目の紙葉はK折丁の2枚目に挿入するための紙葉であることに間違いはない。K2に対する差し替え紙葉の印刷はKk折丁の紙葉を使って行われたのである。従って、Mizuta||0272本には131、132ページを含んだ1紙葉が二カ所に存在していることになる。一つがK2（削除紙葉）、もう一つがKk3（差し替え紙葉）の紙葉である。

もうすこしMizuta||0272本のKk折丁（表2）を見てみよう。Kkの1枚目はIndexであり、裏ページの見出しの最後はWで終わっている（図6の左ページ）。そしてKkの4紙葉目の最初の見出しはWから始まっている（図7の右ページ）。これら2枚の紙葉の見出しはつながっているにもかかわらず、両者の間には2枚の紙葉が存在していることになる（図6の右ページと図7の左ページ）。

それに対して、Mizuta||0269本やHobbes||E58本のKk折丁の内訳は表1に示した通りである。この折丁では差し替え用の紙葉が削除され、New BOOKSの紙葉は最後にきているので、Indexの2紙葉の内容は連続している。

出版者はK2の内容を印刷し直すために、最後の折丁を活用することにした。当初、Kkは2枚の紙葉を使ってIndexだけを印刷すればよかった。しかし訂正が必要になると、もう1枚紙葉を用意しなければならない。

3枚の紙葉を印刷する方法は2種類ある。1つは二折判で印刷し、別に1枚の紙葉を印刷して、3枚にまとめる方法である。これだと表裏合わせて4回印刷機を動かす必要がある。それに対して四折判にすると、印刷機を動かす回数は2回で済むが、その代わりに紙葉が1枚余ってしまう。出版者は後者を選択し、余った1枚にはNew

BOOKS（新刊案内）を載せることにした。となれば、たとえ広告であっても、この紙葉は本文と一緒に刷られるので、本の構成を表す校合式には必ず含めなければならない。

Index用の紙葉2枚、K2に対する差し替え用の1枚、さらにはNew BOOKS用の1枚、都合4紙葉を同時に印刷し、かつ、各紙葉が表2の順に並び、1枚目と4枚目そして2枚目と3枚目の紙葉をとじ目でつながった状態にするには紙葉をどのように配置すればよいのだろうか。

以上をふまえて四折判の組み版を配置したのが図8である。そして印刷後、Kk1を右下に固定した状態で、aaを山折り（図9（1））にし、次いでbbも山折り（図9（2））にする。そして読めるようにするために、綴じ目以外の袋状の部分を開く。そうすると各紙葉はIndex、New BOOKS、*K2、Indexの順に並ぶ。この順序は表2と同じである。

そして出版者が予定通りの作業をすると、図8の上側の2紙葉を切り離してから、その2紙葉を折り目の部分（bb）でさらに切り離す。そして*K2の紙葉はK2の紙葉と差し替え、残った1枚（New BOOKS）はKk1、Kk4（両紙葉はとじ目でつながっている）の紙葉の後に配置する。そうすると、この形は表1と同じになる。

以上から判るように表2は差し替え紙葉も含めて印刷し、その後の必要な措置を施さないままに綴じてしまった結果だったのである。それに対して、表1は出版者が出そうとした最終的な形（理想本）を示している。

Mizuta||0272本は、削除と差し替え印刷がどのように行われ、どのように綴じられるかを知ることのできる非常に貴重な本と言える。表1を見ると、最後の紙葉Kk3はNew BOOKS、即ち、広告の紙葉である。Mizuta||0269本やHobbes||E58本だけを手にしたとき、Kk3が必要不可欠な紙葉かどうかは判断しにくい。というより、広告紙葉のため、不必要な紙葉とみなされる可能性が高い。例えば、Archive.org.に提示されたTisch Library本では、この広告紙葉を図で表示していないが、注記で、「Bookseller's advertisements: [2] p., final sequence of v. 3」と説明している（注1）。Mizuta||0272本の情報があれば、この広告紙葉が必要不可欠だと判断して図を撮影、表示したので

はないだろうか。その意味でも、Mizuta||0272本の存在は重要である。

それにMizuta||0269本やHobbes||E58本の校合式を作成するときにも、Mizuta||0272本の存在は欠かせない。

Mizuta||0269本やHobbes||E58本の校合式は下記の通りである。

$$A^4 B-I^8 K^8 (-K2+*K2) L-2I^8 \\ 2K^4 (2K1.4 \ 2K2.3 (-2K3=*K2))$$

そしてMizuta||0272本の校合式は下記のようになる。

$$A^4 B-2I^8 2K^4 \\ \text{注} \ 2K^4 \text{の内訳。} 2K1: \text{Index (W-),} \\ 2K2: \text{New BOOKS, } 2K3: *K2, \\ 2K4: \text{Index (-W)}$$

前者の式で、

$$2K^4 (2K1.4 \ 2K2.3 (-2K3=*K2))$$

と表示出来るのはMizuta||0272本が存在するからであり、この本がなければ、最後の1紙葉、即ち広告紙葉の扱いに苦慮し、下記のようにになってしまう。

$$2K^2 (2K2+1)$$

又は

$2K^2$ 注：New BOOKSの印刷された紙葉が最後に付いている。

（この形が前述のTisch Library 本である。）

それに差し替え紙葉が（-2K3=*K2）と表示できるのもMizuta||0272本が存在するおかげである。

Political disquisitions の印刷・製本の様子を正確に把握するにはMizuta||0272本の存在が不可欠だと言えよう。

本稿をまとめるにあたり、名古屋大学附属図書館研究開発室研究員の松波京子さんと元同研究員の中井えり子さんにはお世話になった。お礼を申し上げる。

注1. 図1-7は名古屋大学附属図書館所蔵本を撮影した。

注2. https://archive.org/details/politicaldisquis03burg_0/page/n8

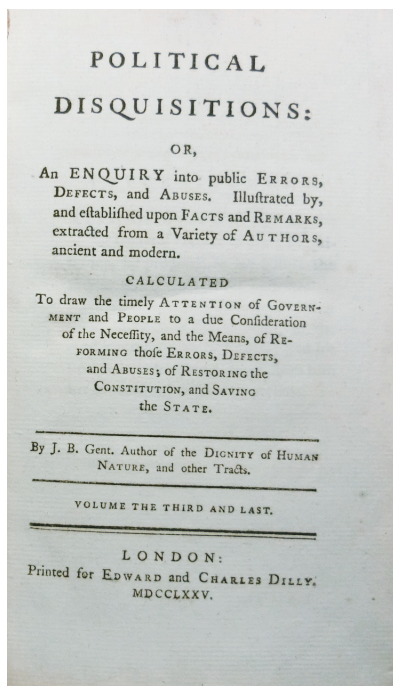
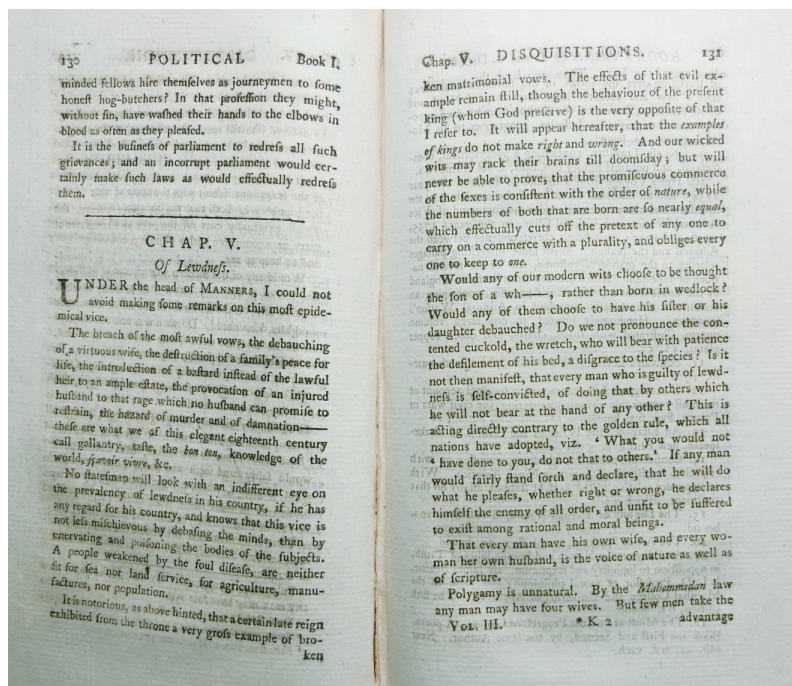


図1：Mizuta;0272本の
第3巻の標題紙



130ページ
(所在K1^v)

差し替え紙葉の131ページ
(折記号*K2付き)(所在K2^f)

図2：Mizuta;0269本の130-131ページ

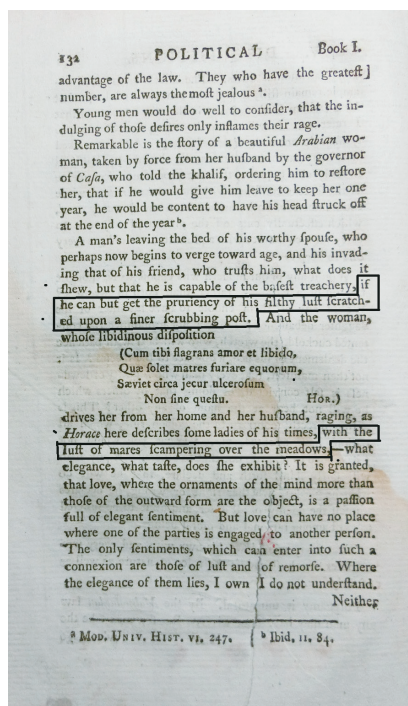


図3：Mizuta;0272本の132ページの
訂正予定の部分 (所在K2^v)

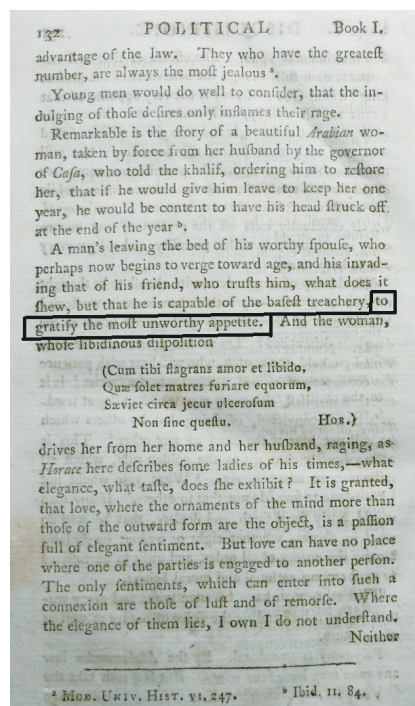
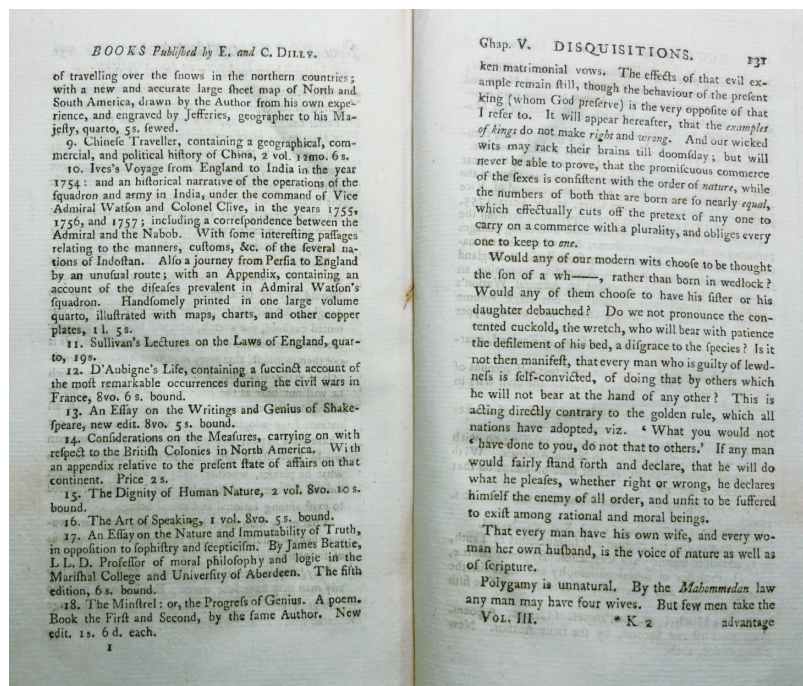


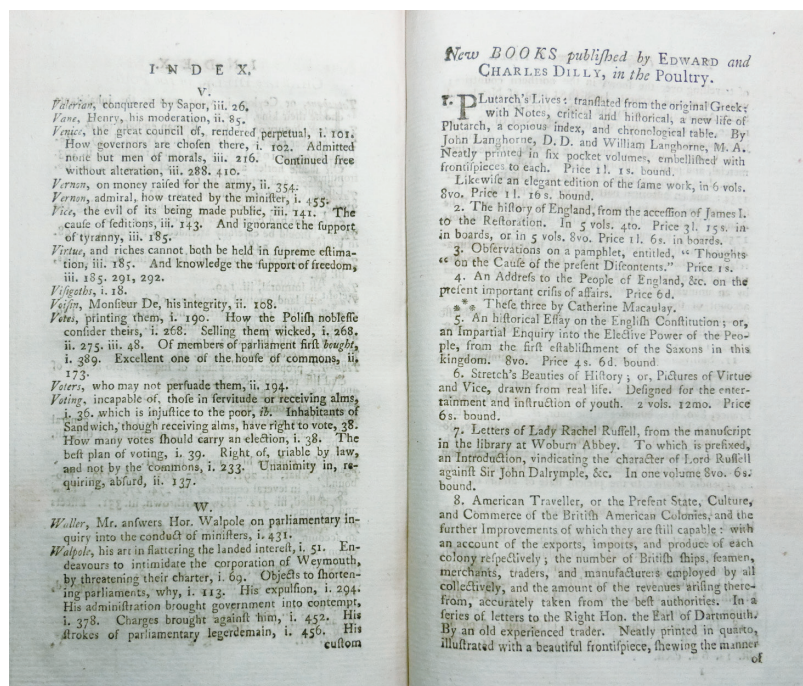
図4：Mizuta;0272本の132ページの
訂正後の部分 (所在KK3^v)



New BOOKS (所在Kk2^V)

K2への差し替え紙葉 (折記号*K2付き)
の表ページ (所在Kk3^f)

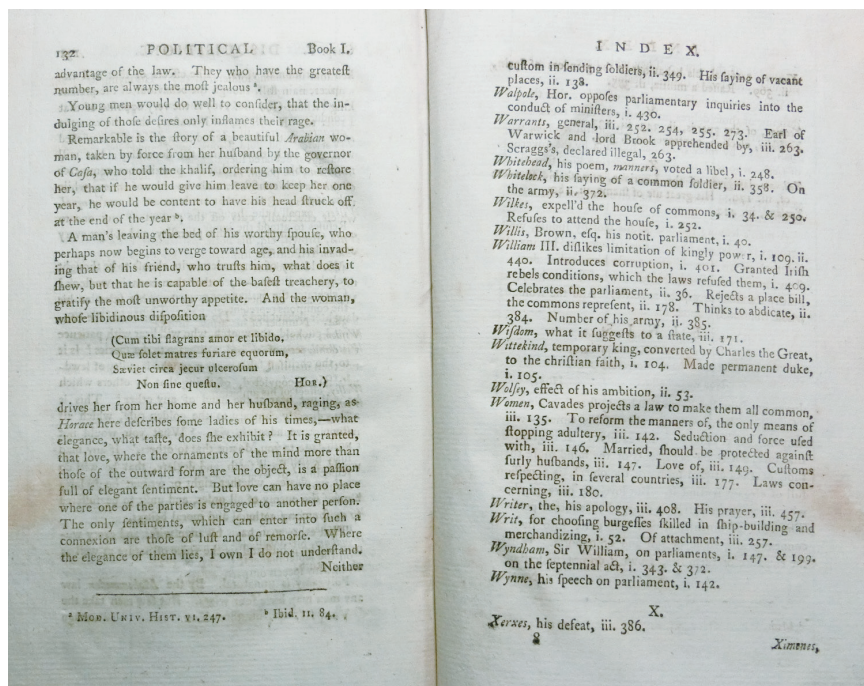
図5 : Mizuta;0272本のKk2^VとKk3^fの紙葉



Index W- (所在Kk1^V)

New BOOKS (所在Kk2^f)

図6 : Mizuta;0272本のKk1^VとKk2^fの紙葉



K2への差し替え紙葉（折記号*K2付き） Index -W（所在Kk4^r）
の裏ページ（所在Kk3^v）

図7：Mizuta,||0272本のKk3^vとKk4^rの紙葉

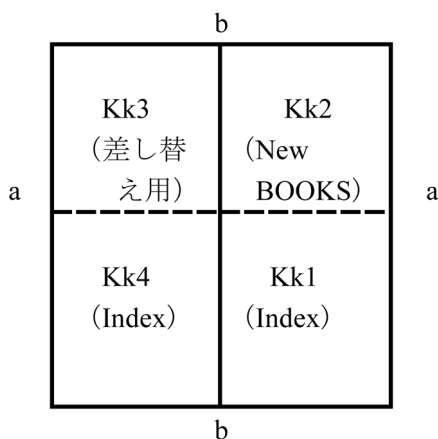


図8：四折判の組み版の配置

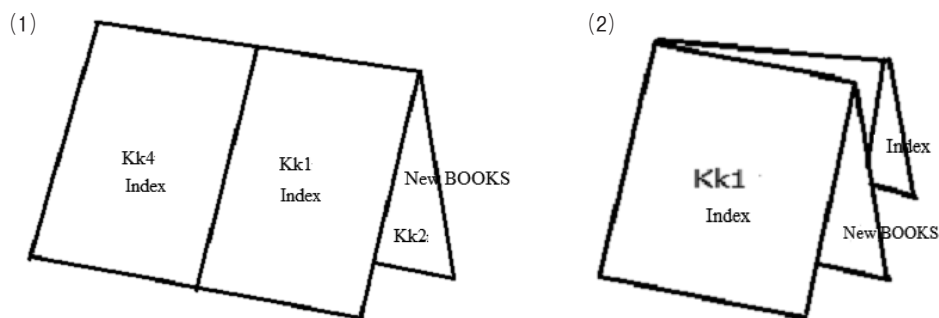


図9：四折判を折り畳む